

## 外来小手術シリーズ「歯・歯槽部の小手術」

## 第2回

下顎埋伏智歯抜歯  
2回法抜歯

大分大学医学部歯科口腔外科学講座  
助教 山形純平

## はじめに

下顎埋伏智歯抜歯は、日常の臨床で行われる頻度が高い口腔外科手術法で、歯科治療のなかでも術者、患者ともに高いストレスが掛かる手技です。その理由の一つとして、下歯槽管損傷によるオトガイ神経麻痺が挙げられます。下顎埋伏智歯は、その解剖学的位置から根尖が下歯槽管に近接もしくは接触している事がしばしばあり、過去の報告では下顎埋伏智歯抜歯に伴うオトガイ神経麻痺は0.35～5.5%の頻度で生じると報告されています。

今回は、根尖が下歯槽管に近接もしくは接触した智歯の抜歯後に生じるオトガイ神経麻痺を回避する1つの方法として、2回法抜歯を紹介します。

## 2回法智歯抜歯とは

2回法智歯抜歯とは、1回目の手術で智歯の歯冠を除去し周囲骨を削除する事により、歯の萌出力により歯根が移動し下歯槽管と離解した後に歯根を抜歯する方法です。利点、欠点としては、

## ・ 利点

- ①根尖と下歯槽管の位置関係を改善できる
- ②1回の侵襲の程度を軽減できる
- ③1回の手術時間を短縮できる
- ④患者と術者のストレスが軽減できる
- ⑤偶発症、後遺症の発生頻度を低下できる

## ・ 欠点

- ①手術を2回行う必要がある
- ②抜歯終了までの期間が長期に及ぶ
- ③創部に食渣が停滞しやすくなることがある
- ④歯髄処置を行わない場合に歯髄炎を生じる可能性がある

などが挙げられます。これらを患者さんに十分に説明し同意を得て行う事が重要です。

## 術前画像診断

下顎智歯の埋伏状態ならびに下歯槽管との位置関係を詳細に把握するにはCTが有効ですが、実際には費用や時間の面からCT撮影が困難な事が多く、一般的にはパノラマX線写真を用いて評価します。パノラマX線写真の所見で歯根と下歯槽管が重なって見える場合には、オトガイ神経麻痺の発生頻度が上昇するため注意が必要です。また下歯槽管上壁の白線の消失や、根尖での下歯槽管の彎曲、不明瞭な歯根膜腔も注意を要する所見です。

## 1回目の手術

1回目の手術は、歯冠の除去ならびに周囲骨の削除を行い、歯根が萌出しやすくする事を目的とします。局所麻酔、切開後に歯冠周囲の骨を削除し、歯冠を分割し除去します。この時、歯冠はできるだけ最大膨隆部より根尖側で除去し、深部や舌側に歯冠の引っ掛かりがないようにします。また、遠心の骨の削除や、歯根に沿って周囲骨をラウンドバーなどで削除することにより歯牙が移動し易くなります。歯冠除去後に、露髄や熱による歯髄症状が出現すると判断される際には、生活歯髄切断や抜髄を行います。このとき、ユーージノールセメントの様な崩壊しやすいセメントは、2回目の手術時に崩れて創内に残存する可能性があるため、グラスアイオノマーセメントなどの硬質セメントで仮封します。処置が終わったら閉創し、1回目の手術を終了します。

### 移動観察期間

2回目の手術までの移動観察期間は、一般的に2～12ヶ月で、1～2ヶ月に一度X線写真にて歯根の移動状況を確認し、2回目の手術時期を決めます。当科では概ね3ヶ月後に歯根の移動を確認し2回目の手術を行っています。歯根が萌出し対合歯と接触し移動が不十分な場合には、接触部を削除します。

### 2回目の手術

十分な歯根の移動が確認できたら、2回目の手術を行います。可及的に1回目の切開線を用いて切開し、歯根を明示します。歯根が萌出してきているため、比較的容易に脱臼が可能ですが、根の形態により摘出が難しい場合には分割し抜去します。肉牙を搔破し、創内を洗浄後に閉創し終了します。

### まとめ

2回法智歯抜歯は下歯槽管損傷を回避する有効な方法です。しかしながら、抜歯期間が長期に及ぶなどの欠点があるため、術前に十分なインフォームドコンセントを行い用いる事が大切です。

#### 【当科で2回法智歯抜歯を行った症例】

・症例1 26歳 男性

右下8の抜歯依頼にて紹介受診。パノラマX線写真(写真1)およびCT画像(写真2)にて下歯槽管と歯根の接触を認めため、2回法智歯抜歯を選択した。3ヶ月後のパノラマX線写真(写真3)にて歯根の移動を確認し抜歯した。

・症例2 31歳 女性

左下8の抜歯依頼にて紹介受診。パノラマX線写真(写真4)およびCT画像(写真5)にて下歯槽管と歯根の接触を認めため、2回法智歯抜歯を選択した。5ヶ月後のパノラマX線写真(写真6)にて歯根の移動を確認し抜歯した。



写真1：症例1 初診時



写真2：歯根と下歯槽管の接触(矢印)を認めます



写真3：歯冠除去3ヶ月後



写真4：症例2 初診時

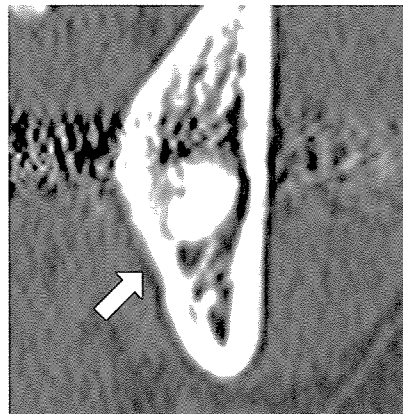


写真5：歯根と下歯槽管の接触(矢印)を認めます



写真6：歯冠除去5ヶ月後